

高3夏までの勉強法

G
さん

学部:商学部
得意科目:数学、日本史
苦手科目:国語、英語

高2

高2の時は勉強よりも部活を中心においた生活を送っていました。週6で部活やその朝練があり、勉強に充てられる時間は少なかったため、家でも勉強するようにはしていましたが基本的には学校の授業にしっかり取り組むようにしていました。中でも数学と社会の授業はよく聞くようにしていましたが、それ以外の科目の授業は睡眠や内職ができる時間が割とありました。定期試験に関しては、自分はあまり手を抜けない性格なので毎回学年一桁をキープできるくらいは勉強していました。この時期は勉強の習慣をつけることが一番大切だと感じていたので、毎日短い時間でも良いので勉強をして勉強時間がゼロにならないように意識していました。

高3
春～夏

高3の時は塾に入っていたので、国語に関してはそこで配布されるテキストを中心に取り組んでいました。その他の科目は基本的に自学自習で取り組んでおり、数学は『文系の数学』や『文系数学の良問プラチカ』、日本史は学校で配布される教科書と山川の『日本史用語集』を用いて勉強していました。いずれの参考書もボロボロになるまで使い込んでから別の参考書に取り組むようにしていました。夏休みに入るまでに基本事項を完璧にマスターして、そこからは志望校からレベルを一つ下げた大学の過去問に取り組み始め、演習をたくさん積んでいきました。とにかく基本事項の定着と苦手科目をなくすことがこの時期で一番大切だと思っています。

M
さん

学部:法学部
得意科目:英語、日本史
苦手科目:国語、数学

高2

高2の頃は学校の試験勉強や塾の宿題を軸に自学自習を進めていました。自分は部活には入っていなかったものの、生徒会役員の中心として活動していたため、平日は部活に所属していた人と同じくらい忙しかったと思います。そうした中でも英単語や古文単語などの小テストの学習は欠かさず行っていました。このような基礎的な知識の定着には、やはり地道な積み重ねが大切だと思います。家ではまったく勉強できない性格なので、高2の頃から放課後は塾の自習室に行くように心掛けていました。塾の自習室では塾の宿題に取り組んだり、試験期間にはその勉強をしたりと、この頃から机での勉強を習慣化することで受験期に向けた勉強の基礎体力を作れたと思います。

高3
春～夏

高3になると塾の授業コマ数が増え、平日の夜は毎日塾の授業が入っていました。そうした中でも学習したことがしっかりと身につくよう、復習に力を入れました。特に日本史は覚えることが多く大変でしたが、塾でもらったプリントを何度も繰り返し読んで、どこに何が載っているかを暗記している状態を目指しました。その中で、論述力向上のため、知識だけでなく全体の流れを掴めるよう意識しました。また、英単語や古文単語などの基礎知識は夏休み以降には取り組む時間が取れないだろうと考え、夏前から計画的に復習をしていました。まだ夏休みがあるからと慢心するのではなく、早い時期から受験に向けて知識を固めていくことが大切だと思います。

夏休み勉強法

K
さん

学部：法学部
得意科目：英語
苦手科目：国語
冠模試判定：B

～1日のスケジュール～

4:00	6:00	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00	24:00
睡眠	朝食	勉強	昼食	勉強（休憩を間に3回）				夕食	勉強→睡眠	

Q1:夏休みの戦略・到達目標は？

夏の一橋本番レベル模試は自分が思っていた以上に良い結果だったため驚きました。ただ、その結果が偶然で本番も同じようにうまくいくとは限らないとわかっていたので油断せずに模試の復習をまんべんなく行いました。夏休みはとにかく春よりも一日に勉強する時間を増やし、習慣化することを目標としました。勉強戦略に関しては過去問分析を行い、学習計画を立てるという方向でした。世界史ではどのような意図で出題される傾向があるのか、数学では頻出分野と効率の良い点数の取り方、英語では難解な絵を説明する英作文、国語では近代文語文などを徹底的に勉強しました。

Q2:実際どの程度できた？

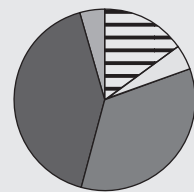
夏休みは毎日11時間勉強していました。ただ、よく言われることですが、自分があらかじめ想定していた通りに上手くいくことの方が少ないです。努力を重ねたからといってその結果や成果がすぐに現れるものではありません。自分の状況を客観的かつ冷静に分析し、合格までの道に足りないものをインプットしてください。

Q3:夏休みの間にどのレベルまで到達するべき？また夏休みにやっておくべきことは？

夏休みまでの判定は気にしなくて良いと思います。良い判定をとっておくに越したことはないですが、その結果が入試の可否を保証するわけではないので模試を受けた意味を考えて自分の現在地と大学の過去問の客観的な分析を徹底的に行ってください。自分は数学の過去問を日常的に解いて時間配分や難易度に慣れていく段階に入っていました。数学は一朝一夕で上達するものではないので他の科目と比較して割と早いタイミングで過去問演習を始めたほうが良いかもしれません。自分は世界史選択だったのですが、夏休みは徹底的に過去問研究を行いました。英語に関しては英作文の練習をおすすめします。一橋の過去問である必要はなく他大学や問題集の英作文を解いて先生や他の人に見せてこの時期に基本的な文法ミスや構成ミスを減らすべきです。夏休みにおいて最も重要なことは、客観的分析を日常的に行えるようになることです。自分が間違ったり失敗したりするのは全て一定の原因があります。この時期に成功を習慣づけてください。やれるだけのことをやったら「ドン」と胸をはっておけば良いんです。

コラム

一橋生の夏休みの勉強時間は？



6時間未満
6時間～8時間
8時間～10時間

10時間～12時間
12時間以上

S
さん

学部：商学部
得意科目：国語
苦手科目：数学
冠模試判定：D

～1日のスケジュール～

4:00		6:00		8:00		10:00		12:00		14:00		16:00		18:00		20:00		22:00		24:00	
睡眠	朝食	勉強	休憩	勉強	昼食	勉強	休憩	勉強	休憩	勉強	夕食	余暇							睡眠		

Q1:夏休みの戦略・到達目標は？

夏の冠模試はD判定でしたが、自身の学力が十分でないことは以前から自覚していたため、特に気落ちすることはありませんでした。それよりも、模試を受けることで現状を客観的に知り、対策を考えることができる良い機会になると捉えていました。特に数学の得点が振るわなかったため、夏休みは数学に重点を置き、基本事項から復習をして基礎を固めることを目標としました。また、計画的に勉強時間を確保し、1日8時間を目標に学習習慣を確立することを目指しました。朝は頭が冴えていて集中しやすいと感じたため、毎朝できるだけ早起きして勉強を開始することを心掛けました。

Q2:実際どの程度できた？

数学では、公式や問題を解くための定石を覚え、自分が取り組んだ問題の解法を導き出す方法を自分の言葉で説明できるようになりました。その結果、難しい問題への対応力も少しずつ向上しました。また、他の科目についても計画的に学習を進めた結果、一橋の過去問に対応できるレベルまで上げることができました。

Q3:夏休みの間にどのレベルまで到達するべき？また夏休みにやっておくべきことは？

夏休みの終わりまでに全科目で一橋の過去問に挑戦できるレベルまで到達していることが理想だと思います。単純な知識の習得だけでなく、実戦形式の問題に取り組むことで応用力を養うことができます。基礎の部分をじっくり上げることができる機会は夏休みが最後であり、夏休み以降は過去問演習を中心に実戦的な力を伸ばす段階に入るべきだと思います。また、一橋では社会学部を除き英語と数学の配点比重が大きいので、この2科目を重点的に仕上げておく必要があります。英語では長文読解や記述表現、数学では標準的な問題に安定して対応できる力を夏のうちに養っておくと良いと思います。また、夏休みは長期間にわたって学習を管理する機会でもあるため、日々の勉強計画を立て学習習慣をしっかりと身につけることが非常に重要です。安定した生活リズムを身につけ、勉強に対する抵抗感を減らすことができると良いと思います。秋以降の成績の伸び方は、夏休み期間中にどれだけしっかりと基礎を固め、安定した学習習慣を身につけられるかに大きく左右されると思います。

共テ前勉強法

N
さん

学部：社会学部
得意科目：英語、世界史
苦手科目：国語、数学
冠模試判定：B

9月

秋は冠模試に向け二次試験対策をしました。この時期くらいに世界史の全範囲をひととおり終えると安心です。また公共、倫理や公共、政治・経済といった共通テストでしか使わない科目も徐々に勉強し始めましょう。古文と漢文も基礎ができていない人や不安な人はこの時期から勉強し始めることをおすすめします。

10月

二次試験に必要な科目、特に苦手科目の演習をしっかりと積んでおくのが良いと思います。また、英語はどの学部も配点が高いので継続的に勉強しましょう。具体的には長文問題に毎日触れ、文法が不安なら必ず固めましょう。文法力は自由英作文にも大きな影響を与えるので、侮ることなく基礎固めを徹底しましょう。

11月

冠模試の手応えと共通テストの自信に応じて共通テスト対策と二次試験対策の勉強比率を変えれば良いと思います。共通テストの自信がない人は共通テスト対策へ徐々に切り替えると良いです。冠模試が終わったら理科基礎の勉強も始めましょう。この時期は理科基礎の選択科目を変えることができる最後の機会です。

12月

共通テストに自信がある人は中盤まで二次試験対策中心にし、後半からは共通テスト対策をした方が良いです。対策には過去問や共通テスト方式の問題を解きましょう。各科目で最低80%ほど、得意教科で90%取ることを目指すのが良いです。ただし社会学部志望の人は配点が高い理科基礎の勉強を徹底しましょう。

Y
さん

学部：法学部
得意科目：世界史
苦手科目：国語、地理
冠模試判定：D

9月

夏休みに終わらなかったことをやりました。数学は一橋の頻出分野の基礎固めと同時に二次試験の過去問を開始し、世界史は通史を終わらせながら年号の暗記を語呂合わせで進めました。英作文はさまざまな形式があるので週に1問解くことを習慣化し形式に慣れるとともに、添削してもらい実力の向上を目指しました。

10月

冠模試に向けて世界史は比較的対策がしやすい第1問と第3問の過去問を解きました。これらの設問は基本的に毎年同様の分野から出題され、似た問題が出るがあるので、できるだけ過去問を解いて慣れておくことをおすすめします。数学は繰り返し解いて、考え方を自分なりに整理して定着させることが大切です。

11月

冠模試では配点が一番高い英語の点数が悪かったので全体的な英語力の向上を目標としました。英文読解に関しては夏休みに使っていた『ポレポレ』を解き直しました。他にも長文と単語帳に毎日触れ、『英語頻出問題総演習』でイディオムや熟語を強化しました。冠模試が終わった後は、理科基礎に力を入れ始めました。

12月

共通テストの対策は学校の演習時間内で完結するようにしていました。共通テストでしか使わない科目は学校の定期試験のたびに復習するのがおすすめです。演習後は復習を徹底し抜けていた知識を埋めました。放課後はおもに数学、世界史の過去問に時間を充てこの時期も二次試験の対策を欠かさないようにしました。

共テ後勉強法

K
さん

学部：法学部
得意科目：世界史
苦手科目：国語、地理
リサーチ判定：D

1
月

リサーチの結果を踏まえて上智は共通テスト併用で合格できそうだったのであまり焦ることはなく、早慶と一橋の対策に専念することにしました。一橋のリサーチはD判定で少し落ち込みましたが、もともと二次試験には自信があり、一橋以外を受けることは考えていなかったの、むしろ二次試験で共通テストでの失敗を挽回しようと火が付きまして。早慶の出願する学部を決める際は一橋と相性が良い問題を出題するかを基準に選びました。そして、過去問や今までやりこんできたテキストに取り組むことで一橋合格に向けて勉強を進めました。

2
月

僕は浪人生だったので、基本的には塾のテキストを完璧にすることを目指しました。そのうえで余裕がある科目については過去問や冠模試に取り組みました。英語はテキストを繰り返し音読し、過去問に取り組む際には設問の作られ方まで分析しました。また、英作文を定期的書いて先生に添削をお願いしました。数学は本番で「見たことあるけど解けない……」となるのが嫌だったのと塾のテキストの量が膨大だったので、過去問よりテキストを繰り返しました。国語は定期的に要約問題の過去問を解いて先生に添削をお願いしました。世界史は過去問を30年分取り組み、それらの解答を暗記しました。さらに冠模試10年分の解答解説も頭に叩き込むことで、一橋の頻出分野の理解を深めました。また、過去問の添削指導を通じて伝わりやすい答案の書き方を身につけました。

I
さん

学部：社会学部
得意科目：世界史
苦手科目：数学、英語
リサーチ判定：E

1
月

社会学部は共通テストの配点が低いので、リサーチの結果はあまり気にせず併願校の過去問を解くことに集中しました。私は併願校が多く、一橋の過去問や論述に特化した問題集での直接の対策には時間を割くことができませんでした。併願校の出願科目を一橋の受験科目に合わせることで知識の抜けを防ぎました。また、併願校の中でも論述問題を出題する大学の過去問を多めに解き、論述力の維持を心掛けました。併願校対策には時間を取られましたが、一橋の受験前に併願校の合格体験をしておくことで緊張せず本番に臨むことができました。

2
月

得意科目である世界史を得点源にしたかったので勉強時間を多く取っていました。参考書は、秋ごろから使用していた『世界史論述練習帳new』を継続して使用し、論述の基礎力を高めました。過去問は基本的に論述力を伸ばすことだけを考えて時間制限を設けず、教科書やプリントなどを使って知識の裏取りをしながら解いていました。自分の論述を他人に見てもらうのも大事だと思ったので、添削も受けていました。本番通りに時間を計って大問3つをまとめて解く練習をしたのは、直前になってからの2回くらいでした。英語と国語は併願校の対策と並行して週に1年分ずつ、一橋の過去問を解いて勉強していました。数学は苦手意識があり得点が見込めなかったうえ、併願校の試験で使用しなかったの、併願校の試験がすべて終わってから過去問で2回本番通りに練習しただけでした。